

今週の

いきもの広場

1 クロアゲハの幼虫



ミカンの木にクロアゲハの幼虫がいました。よく探すと、他の葉にもいろいろな大きさの幼虫が見つかります。

2 エゴツルクビオトシブミの揺籃



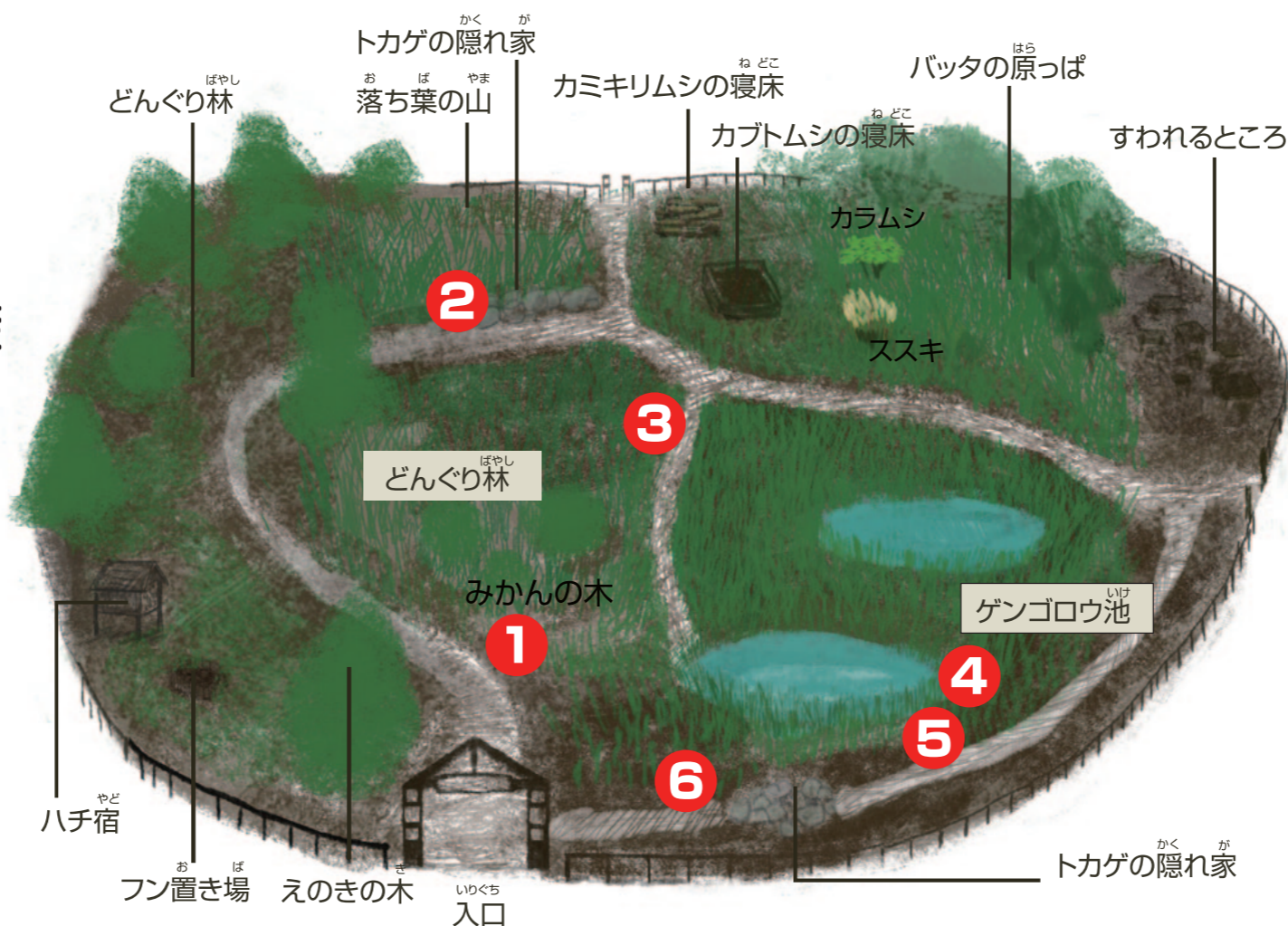
オトシブミの仲間は、葉を巻いてその中に卵を産みます。幼虫はその「ゆりかご」の中の葉を食べて成長し、やがて成虫になり出てきます。

3 コイチャコガネ



いきもの広場ではクヌギやコナラの葉の裏についていることが多いです。1cmほどの小さなコガネムシですが、よく見ると、細かい毛がたくさん生えています。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。6月になって、さらにいきものの種類が増えています。春にふ化した幼虫がどんどん成長し、成虫の姿になっているものもいます。



6 クサギカメムシ (1齢)



幼虫の赤い体とかわいらしい模様は、成虫になると消えて、茶色の目立ちにくい体になります。

5 クビキリギス



成虫で越冬し、5月から6月にかけて産卵します。口の周囲が赤いのが特徴です。春～初夏にかけて夜、ジ—という鳴き声を出します。

4 アカスジキンカメムシ



金属光沢のある緑色に、赤いスジ模様のある体を持つ美しいカメムシで、幼虫の茶色の体から大きく変化します。

カブトムシの幼虫はお休み中です



カブトムシの幼虫がさなぎへと変身中です。さなぎの時に傷がつくと、成虫になれないこともあります。1ヶ月ほどの間、土は掘らずに、静かに見守ってあげてください。